

令和7年度 栃木県小学校教育研究会
外国語研究大会 宇都宮大会

研究主題

相手意識をもち

主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成

～英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実感できる外国語活動・外国語科を目指して～



令和7年11月13日（木）

宇都宮市立泉が丘小学校

日程及び内容

令和7年 11 月 13日 (木)

1 受付 13:00~13:20

2 全体会 13:20~13:50

- (1) 開会の言葉
- (2) 部会長あいさつ
- (3) 会場校校長あいさつ
- (4) 研究概要の説明
- (5) 閉会の言葉

3 公開授業 14:00~14:45

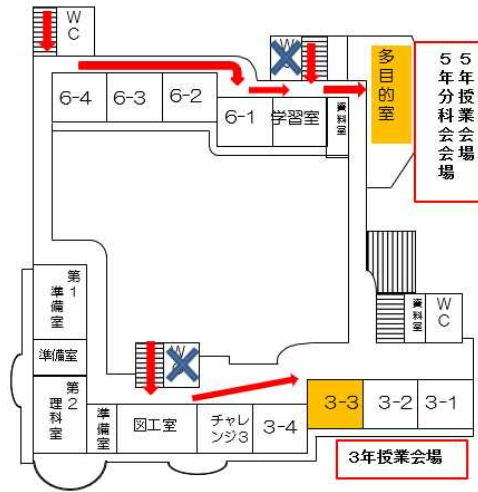
学年	単元名	授業者	授業会場
3年	Unit8 What's this ?	内海 大地 ルーク・フィッツ・シモンズ	3年3組
5年	Unit6 Where is the Library ?	湯澤 宏江 マーセル・ウィリアムズ	多目的室 (3階)

4 分科会 15:00~16:00

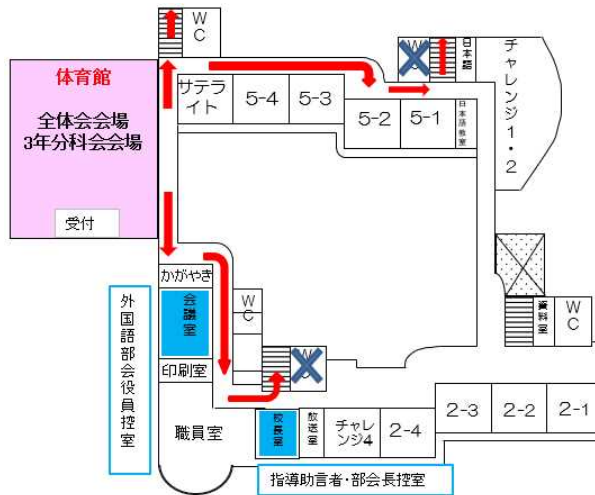
学年	指導助言者	会場
3年	宇都宮市教育委員会学校教育課指導グループ 副主幹・指導主事 星 笑美子 先生	体育館
5年	栃木県教育委員会義務教育課 副主幹 福田 俊彦 先生	多目的室 (3階)

会場案内

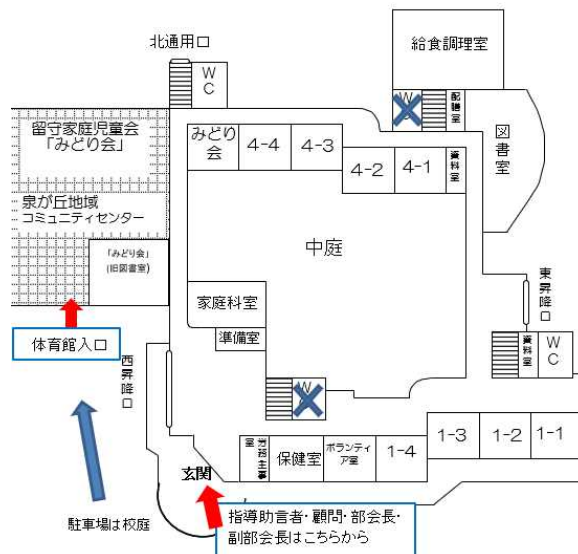
3階



2階



1階



トイレ工事中のためご不便をおかけし、申し訳ありません。
 使用可能場所は、体育館 WC、南校舎 1～3階東 WC、北校舎 1～3階西 WC となります。

令和7年度 校内研究全体計画

1 研究主題

相手意識をもち 主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実感できる外国語活動・外国語科を目指して～

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

近年、社会はグローバル化や情報化が加速度的に進展し、子どもたちが将来、多様な背景をもつ人々と協働し、予測困難な社会をたくましく生き抜く能力の育成が課題である。特に、学習指導要領のもとでは、外国語教育を通じて、知識・技能の習得に加え、国際理解や多文化共生の視点、そして「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を育むことが求められている。しかし、現状の英語学習においては、依然として知識習得に偏りがちで、実生活で「使える英語」として活用するための実践的なコミュニケーション能力が十分に育まれていないという課題がある。小学校高学年で外国語が「教科化」されたことで、児童は系統的な学習を通して「英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさ」を実感することが期待されている。一方で、教科化に伴う語彙数の増加や、中学校での「読み書き」、文法学習への円滑な接続への対応が急務とされている。児童がこれからの社会で必要とされるコミュニケーション能力を身に付けるためには、単に定型的な表現のやり取りを繰り返すだけでなく、「間違いを恐れず」自分の考えや気持ちを「主体的に」伝えようとする態度を育むことが不可欠である。そのためには、学習の場において、常に目の前にいる「相手意識」をもち、「どうすれば相手に伝わるか」を考えながら外国語を使う経験を積み重ねる指導が強く求められている。

こうしたことを踏まえ、本研究では、児童が英語に触れる活動や学習を通して、「相手意識をもち、主体的にコミュニケーションを図ろうとする」意欲や態度を最大限に引き出し、小学校における外国語活動・外国語科が本来目指す「英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実感できる」授業のあり方を追求し、今後の外国語の学習や実生活、実社会における外国の人々との積極的なコミュニケーションを図ろうとする態度へと繋がることを考える。

(2) 本校の学校経営方針から

学校教育目標

よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となるように、確かな学力と豊かな心、健やかな体をもち、
これからの社会を力強く生き抜くことができる力をもった、たくましい児童を育成する。



学校経営理念

「児童一人一人が、みんなと共に生き生きと輝く学校」

- ・児童が夢と希望をもち、明るく活気に満ちた学校
- ・気持ちのよい環境で、温かい心の触れ合いにあふれ、仲間とともに仲よく学べる学校
- ・家庭・地域と連携した教育活動を推進し、信頼される学校

これらを受け、学校運営における今年度の重点目標の一つである「グローバル社会に向き合うとともに、郷土愛を醸成する教育の推進」では、学習指導要領の趣旨を理解し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた日々の授業改善の推進を大きな柱として取り組むことを挙げている。さらに、学習指導の今年度の重点目標として「単元や題材のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進」、「個別最適な学びと協働的な学びの融合を図った授業の推進」が掲げられている。

外国語活動・外国語科の授業において、児童の学習意欲や思考力・表現力を向上させるためには、相手意識や目的意識をもってコミュニケーション活動を進めていくことが効果的であると考え。そこで、効果的な言語活動を研究し、授業実践を通して検証していきたい。

3 研究主題の捉え方

(1) 「相手意識をもつ」とは

学習活動において、自分の気持ちを相手に伝え、相手の主張や気持ちを理解し、接点を見いだしていくことは大切である。そのため、言語を適切に使えることに加えて、伝えるための工夫や努力が必要とされる。これらは、「相手意識」をもつことによって生まれる。言い換えると、「相手意識をもつ」とは、相手のことをもっと知ろうと意欲をもって聞いたり、相手に伝えようという意欲をもって話したりすることだと考える。

(2) 「主体的にコミュニケーションを図る」とは

学習指導要領「解説」では、「主体的にコミュニケーションを図る」とは、伝えたい相手に、伝えたい内容を、伝え合う必然性のある場面において、自ら発話したり、相手の伝えたい内容を受け止めようとして聞いたりすること」と示されている。具体的には、児童がコミュニケーションの目的・場面・状況を意識し、「伝えたい内容」「伝えるための表現」「伝え方」を思考・判断し、自分の本当の思いを表現したり、伝え合ったりすることと考える。

(3) 「英語に慣れ親しむ」とは

「英語に慣れ親しむ」とは、英語表現を用いて、伝えたい、知りたい思いをもち、思いや情報を丁寧に伝えたり、他者の思いを注意深く聞いたりし、他者、異言語・異文化を知ることである。英語で、外国の方や友達とのやり取りを体験し、段階的に「他者や言語への関心」、「英語の音声や基本的な表現」、「他者への気付き」を高めていくことで、英語に慣れ親しむ児童の姿に近づくと考える。

4 今年度の課題

(1) 児童のコミュニケーションを図る資質・能力の育成

(2) 教師の授業力向上

① 学年の目標をきちんと把握した指導（逆向き授業設計・Can Do List の活用など）

② 英語を学ぶ児童の思考の流れを把握した指導

【comprehensive（包括的な）】

【input⇒intake⇒output（情報等を取り込む⇒情報を自分のものにする⇒表現する）】

(3) ALT の自然な英語 英語らしい音の流れ

【rhythm】【natural English】【quality and quantity of input】

【△repeat after me.】

手立て【例】

○教室英語や活動のデモンストレーションなど，英語を聞く機会を豊富に設ける。

△黒板の英文を見て繰り返し練習する。

○英語でゆっくり，はっきり語りかけること，児童の理解の状況に合わせて，簡単な言葉に言い換え，ジェスチャーやイラストで補って理解を促す。

△日本語に訳し，説明する。

○教師のことを伝えたり，いくつか例を挙げて聞かせたりしながら児童の発話を引き出す。また，児童から発せられたあいまいな表現に対する適切な言い直しや即興的な反応をする。

【研究主題】

相手意識をもち 主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
 ～英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実感できる外国語活動・外国語科を目指して～

【目指す児童像】

- 1 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組む児童
- 2 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現する児童
- 3 英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実感できる児童

【研究仮説 1】

児童の興味・関心を高める言語活動や教材を工夫したり、目的意識をもたせ満足感や達成感を味わえる授業を展開したりすれば、英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組む児童が育つだろう。

【研究仮説 2】

相手意識や目的意識をもたせたやり取りや、伝え合う必然性のある言語活動の充実を図れば、相手に配慮しながら自分の本当の考えや気持ちを伝え合う児童が育つだろう。

【研究仮説 3】

外国語に触れる機会を増やし、繰り返し英語表現を聞いたたり発話したりすることで、英語表現を用いて、伝えたい、知りたい思いをもつ児童が育つだろう。

【研究内容 1】

- ◎ 児童の興味・関心を高め、伝えたい思いを引き出すための教材の工夫
- ◎ 自信をもって自分を表現できるような授業展開の工夫や、発表を称賛し合える雰囲気づくりの醸成
- ◎ Miyary English 実現に向けての本時のねらい (Today's goal) の提示と振り返りの実施
- ・ 見通しをもって学習に取り組めるような単元計画の作成

【研究内容 2】

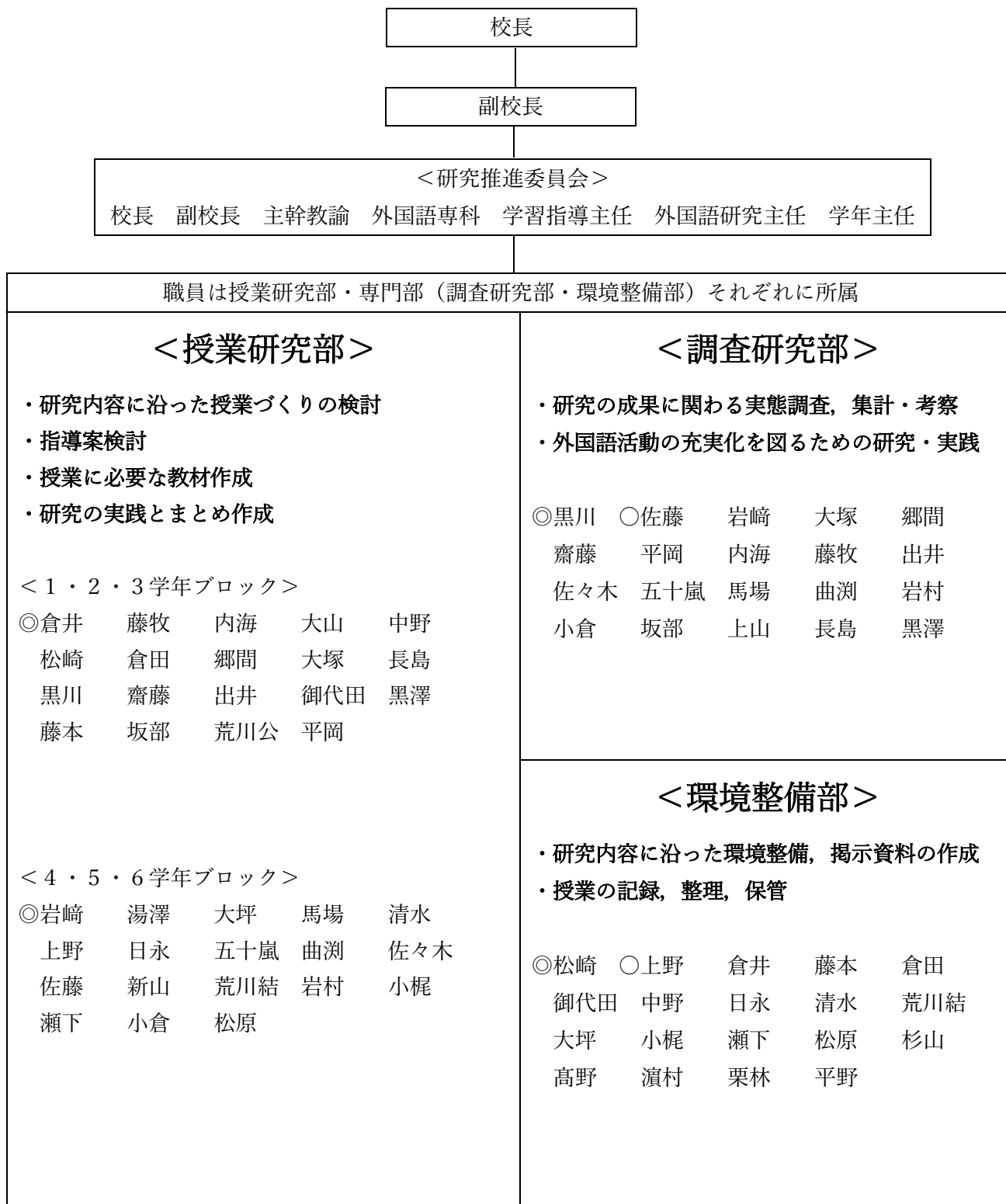
- ◎ 目的・場面・状況を意識した伝え合う必然性のある活動の設定
- ◎ 「コミュニケーションを楽しむために大切なこと」を意識させるための工夫
- ◎ 「RCQ」(Reaction, Comment, Question) を意識した、会話を継続させるための工夫
 - ・ 他者とよりよいやり取りをするための中間振り返りの実践
 - ・ 学習支援ソフトやオンラインツール等、ICT を効果的に活用した学習の推進

【研究内容 3】

- ◎ 外国語の音声を十分に聞かせ、慣れ親しむための意味あるやり取りの実施
- ◎ 「English Time」(朝の外国語活動) や学年・ALT が作成した掲示物など、日常的に英語に触れる機会の充実
- ◎ 教師が授業内で積極的に英語を使用できるようにするための、校内研修の充実と指導技術の向上
- ・ 単語や文型に慣れ親しめるようなゲームなど練習活動の工夫

◎は重点的な取組

6 研究組織



7 アンケートから見る成果と課題（仮説より）

アンケート結果の比較（上から R5 5月・1月 R6 5月・1月）

	質問 ()はR5の質問項目	はい	どちらかといえ ば、はい	どちらかといえ ば、いいえ	いいえ
1	外国語の授業が好きだ。	54.6% 41.6% 45.8% 40.4%	32.2% 40.2% 41.7% 45.4%	9.9% 12.4% 10.7% 11.1%	3.3% 5.8% 1.8% 3.1%
2	外国語の授業に進んで参加している。	52.6% 51.6% 51.8% 51.3%	35.3% 38.6% 38.7% 41.2%	9.9% 9.0% 8.9% 6.1%	2.3% 1.4% 0.6% 1.4%
3	先生や友だちが英語で話したことがわかる。	38.1% 41.8% 50.9% 46.8%	36.3% 38.9% 35.4% 38.2%	18.0% 13.1% 10.2% 11.4%	7.6% 6.2% 3.5% 3.6%
4	英語で先生や友だちとやりとりすることは楽しい。 (英語で先生や友だちとやりとりすることが好きだ。)	46.4% 42.8% 51.2% 46.8%	33.2% 34.5% 33.6% 38.7%	15.0% 16.5% 12.5% 11.1%	5.4% 6.2% 2.7% 3.4%
5	英語で先生や友だちとやりとりすることができる。	38.2% 38.8% 44.6% 42.9%	37.9% 40.7% 36.0% 36.5%	16.2% 14.5% 13.1% 16.2%	7.6% 6.0% 6.3% 4.4%
6	グループやクラスの前で、英語で話すことは楽しい。 (みんなの前で英語で発表することは好きだ。)	16.6% 16.8% 31.8% 28.1%	21.8% 22.8% 29.2% 34.0%	31.9% 30.8% 25.3% 27.9%	29.7% 29.6% 13.7% 10.0%
7	グループやクラスの前で英語で話すことができる。 (自分が思っていることを英語で伝えることができる。)	23.9% 30.4% 33.3% 29.2%	39.3% 40.0% 30.7% 37.6%	25.6% 20.2% 21.7% 22.3%	11.1% 9.4% 14.3% 10.9%
8	4つの大切(笑顔・目を合わせる・聞きやすい声・反応)を意識して、英語を話している。 (R6 質問項目)	42.0% 42.3%	36.3% 41.8%	16.4% 12.3%	5.3% 3.6%
9	習った英単語や英文を読むことができる。 (高学年のみ実施)	30.4% 43.6% 47.8% 49.6%	39.6% 38.2% 29.2% 37.6%	22.0% 16.1% 17.8% 10.7%	8.1% 2.1% 5.2% 2.1%
10	習った英単語や英文を書き写すことができる。 (高学年のみ実施)	30.2% 44.1% 54.9% 58.1%	39.3% 33.9% 30.0% 27.4%	19.6% 17.8% 12.6% 12.4%	10.9% 4.2% 2.5% 2.1%
	相手のことを意識して、英語を話している。 (R5 質問項目)	39.8% 41.2%	43.5% 40.7%	12.5% 14.7%	4.3% 3.4%

○…成果 △…課題

- 質問1「外国語活動の授業が好きだ。」の肯定的回答が、R5 1月82%、R6 1月86%と、4%増えている。
- 質問2「外国語の授業に進んで参加している。」の肯定的回答が、R5 5月88%からR6 1月93%と、調査の度に数値が上がっていると共に、高い数値である。
- 質問3「先生や友達が英語で話したことがわかる。」の肯定的回答が、R5 5月74%からR6 1月85%と、約11%上がっている。
- 質問8「4つの大切を意識して英語を話している。」の肯定的回答が、R6 5月78%からR6 1月84%と、約6%上がっていると共に、8割強まで達している。
 - 仮説1の様々な研究の取り組みによって、児童にとって親しみやすい授業が展開されると共に、「4つの大切」等を意識した温かい学級の雰囲気により、安心して楽しみながら英語を学ぶことができたのではないかと考えられる。さらに、授業を重ねることで、聞き取りに自信がもてるようになり、意識や意欲が高まっていったと考えられる。
- 質問4「英語で先生や友だちとやりとりすることは楽しい。」の肯定的回答が、R5 5月80%からR6 1月86%と、約6%上がっている。
- 質問6「グループやクラスの前で話すことは楽しい。」の肯定的回答が、R5 5月38%からR6 1月62%と、約24%と大きく伸長した。
- △ 質問5「英語で先生や友だちとやりとりすることができる。」の肯定的回答は、R5 5月76%からR6 1月79%と、あまり変化がない。
- △ 質問7「グループやクラスの前で話すことができる。」の肯定的回答は、R5 5月63%からR6 1月67%と、あまり変化がなく、6割程度にとどまっている。
 - 仮説2の研究内容「目的や伝え合う必然性のある活動の設定」「4つのたいせつを意識させるための工夫」が充実した授業づくりをしてきたことが、英語でのやり取りを楽しむ児童の姿につながったのではないかと考えられる。しかし、「できた」「話せた」という手ごたえを感じるまでには至っていないことから、今後は、児童の考えを引き出すための工夫と、自分のもつ英語のスキルを駆使して、伝えたいことを伝えようとする意欲と自信を育てていくことが必要だと考えられる。
- 質問9「習った英単語や英文を読むことができる。」の肯定的回答が、R5 5月70%からR6 1月87%と、約17%上がっている。
- 質問10「習った英単語や英文を書き写すことができる。」の肯定的回答が、R5 5月70%からR6 1月86%と、約16%上がっている。
 - 仮説3の研究内容に組み込み、実践を繰り返すことで、読むことと書くことへの自信が伸長していると考えられる。今後も、授業だけでなく、学校生活の様々な場面で、外国語に繰り返しふれる機会を増やし、外国語に慣れ親しみながら、楽しく取り組ませたい。そして、これらの活動を通して、児童の「できた」「わかった」という自信を育んでいきたい。

第3学年
外国語活動

外国語活動学習指導案

第5校時 児童数 32名
第3学年3組 指導者 内海 大地
ALT Luke Fitzsimmons

1 単元名 Unit 8 What's this?

2 単元の目標

- ・ 外来語とそれが由来する英語の違いに気付き、身の回りの言い方やある物が何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 (知識及び技能)
- ・ 1年生や友達とクイズを楽しむために相手に合わせたヒントを考え、相手に伝わるように工夫しながらクイズを出したり答えたりする。 (思考力, 判断力, 表現力等)
- ・ 相手に分かりやすく伝わるようにヒントや伝え方を工夫しながら、クイズを出したり答えたりしようとする。 (学びに向かう力, 人間性等)

3 単元観

(1) 単元について

本単元では“**What's this?**”や“**It's ~.**”を使って、ある物が何か尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむことをねらいとしている。3年生にとって、このクイズのような表現方法は、多くの児童が楽しみながら意欲的に取り組むことができるやり取りの一つである。

そこで本単元では、クイズ形式のやり取りを通して、児童が楽しみながら“**What's this?**”や、“**It's ~.**”の表現に慣れ親しんでいけるようにしたい。また、これから外国語活動で動物の学習をする1年生に向けて動物クイズを出す状況を設定し、目的と相手意識をもってクイズ作りをしていく活動を通して、主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする姿に迫っていきたい。

(2) 児童の実態について

本学級は男子15名、女子17名の計32名である。本学級は意欲的に外国語活動に取り組むことができる児童が多い。外国語活動の授業に関するアンケートをとった結果、「外国語活動の授業がすきだ」という回答をした児童は全員で、外国語活動に対して好印象が分かる結果であった。一方、「英語で先生や友達とやり取りすることは楽しい」と回答した児童は約60%、「グループや教室の前で英語で話すことができる」と回答した児童は約42%に留まっており、英語で自分の考えを伝えることに自信がもてなかったり、苦手意識を感じていたりすることが考えられる。

そこで本単元では、自信をもってクイズのやり取りをできるようにするために、スモールトークにおけるALTとのやり取りで英語表現に触れたり、毎時間のクイズを通して英語表現を練習したりする。また、4、5時間目では、クイズを出題し合ったりすることで相手意識をもち、友達のサポートを受けながら自信をもってクイズを出し合えるようにしたい。

(3) 研究主題との関連

児童が、英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組んでいくために、「10月に校外学習で動物園に行った1年生に、英語を用いた動物クイズを出す」という場面を設定した。自分たちでクイズを出したり答えたりする活動に加えて、1年生にクイズを出題して楽しむという場を設定することで、目的意識をもって主体的に活動に取り組めるようにする。また、1年生が楽しめるようなクイズを出すという単元のゴールを設定し、毎時間それを意識した振り返りの時間を設けたり、教師から支援したりするなど、児童が単元のゴールに向かって自己調整しやすい環境を整えていく。

(仮説1)

児童が、相手のことを考えて自分の思いや考えを表現できるようにするために、本校で設定した伝える・聞くときの「コミュニケーションを楽しむために大切なこと」を意識できるように支援していく。そして、児童同士でやり取りのよさを称賛し合う活動を取り入れていくことで、相手を意識したやり取りへの意欲を高める。また、単元を通してクイズのやり取りを何度も繰り返す行うことで、自信と安心感をもって英語を用いたクイズのやり取りができるようにする。(仮説2)

外国語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを児童が実感するために、朝の会で英語を用いたあいさつや簡単なクイズをしたり、教室や廊下に授業に関係した英語の掲示物を用意したりするなど、子供たちが常時的に英語を使いたくなるような環境を設定する。(仮説3)

以上の取組により、本校の研究主題である「相手意識をもち主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」に迫りたい。

4 単元計画及び評価計画(総指導時数5時間) 聞く… 話す(やり取り)… 話す(発表)…

時	目標(◆)と主な学習内容	評価			
		知	思	態	評価規準【評価方法】
1	<p>◆様々なクイズに取り組み、単元のゴールを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の様々なクイズを聞いて答える。 ズームクイズ シルエットクイズ 漢字クイズ スリーヒントクイズ 1学年担任からの依頼動画を見て、単元のゴールを考える。 「1年生がわくわくするような動物クイズを作って、クイズ大会をしよう！」 学習の流れを作成する。 【Let's Chant】What's this? 				本時では、目標に向けた指導は行うが、記録に残す評価は行わない。

2	<p>◆クイズにする動物を決め、ヒントの内容やわくわくするために必要なことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【Let's Chant】 What's this? ・動物の単語の練習をする。 ・クイズにする動物をペアで決める。 ・「わくわく」するクイズとはどんなクイズか考える。 <p>ジェスチャーをたくさん使う。 繰り返し伝える。 ヒントを出す順番や内容。 3年生も楽しむ。</p> <p>「コミュニケーションを楽しむために大切なこと」(Smile ,Eye Contact, Clear Voice , Response)を意識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒントの内容や出し方を考える。 	や			<p><知識・技能></p> <p>“What's this?”や“ It's ~.”などを使ってある物が何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。</p> <p>【観察・振り返り】</p>
3	<p>◆1年生がわくわくするような動物クイズを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【Let's Chant】 What's this? ・デモンストレーションから1年生が「わくわくするためのポイント」を考える。 ・ペアでクイズの出し方を練習し、教師に出題する。 ・1人1台端末でクイズを出す様子を撮影しさらに練習を重ねる。 	や	や		<p><思考・判断・表現></p> <p>1年生がわくわくするための工夫を入れながらクイズを作っている。</p> <p>【観察】</p> <p><主体的に学習に取り組む態度></p> <p>“What's this?” “ It's ~.”などを用いてクイズを作ろうとしている。</p> <p>【観察・振り返り】</p>
4 (本時)	<p>◆1年生とクイズのやり取りを楽しむために、ヒントの出し方を工夫しながら、ペア同士でクイズのやり取りをしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【Let's Chant】 What's this? ・他のペアに出題し、お互いにさらによくするためのアドバイスをする。 ・より1年生に伝わるようなヒントの出し方を考える。 	や			<p><思考・判断・表現></p> <p>1年生とクイズのやり取りを楽しむために、ヒントの出し方を工夫しながら、ペア同士でクイズのやり取りをしている。</p> <p>【観察・振り返り】</p>
5	<p>◆1年生に伝わるように工夫しながらクイズを出したり答えたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【Let's Chant】 What's this? ・【Activity】クイズ大会をする。 	や	や		<p><思考・判断・表現></p> <p>“What's this?” “ It's ~.”などを用いてクイズを出している。</p>

わくわく
ポイント

					<p>【観察】</p> <p><主体的に学習に取り組む態度></p> <p>相手に伝わるように工夫しながら、クイズを出したり答えたりしようとしている。</p> <p>【観察・振り返り・記録動画】</p>
--	--	--	--	--	---

5 本時の指導

- (1) 題目 1年生との動物クイズ大会に向けて、わくわくするようなヒントの出し方を考えて、クイズのやり取りをしよう。
- (2) 本時の目標
 - ・ 1年生とクイズのやり取りを楽しむために、ヒントの出し方を工夫しながら、ペア同士でクイズのやり取りをしている。(思考力, 判断力, 表現力等)
- (3) 授業の観点
 - ・ デモンストレーションで目指すべき姿や本時の活動の流れを見せたことは、児童の意欲を高めたり、クイズを出す活動を円滑に進めたりすることに有効であったか。
 - ・ デモンストレーションや中間の振り返りで「わくわくポイント」を意識させる言葉かけをしたことは、児童が相手意識をもちながらヒントの出し方を工夫するのに効果的であったか。
- (4) 本時で慣れ親しませたい言語材料

○ What's this? / Hint, please. / It's ... / That's right. / 動物の単語

- (5) 展開 (4 / 5時間) ◎児童指導上の留意点 ※人権教育上の配慮 ☆研究主題との関連

過程及び児童の活動	学級担任の活動	A L Tの活動	指導上の留意点
1 あいさつ 【Greeting】 S: Let's start English class. S: I'm Happy/fine...	・英語であいさつをする。 Hello everyone.	・英語であいさつをする。 Hello everyone. How are you?	・英語で元気よくあいさつすることにより、活動への意欲を高める。
2 導入とめあての確認 【Today's goal】	・前時までの活動を振り返り、めあてを確認する。		・前時の振り返りで児童から出たヒントの重要性を基に、児童の意欲を引き出しながら本時のめあてを設定していく。
1年生にわくわくしてもらうためのヒントの出し方を考え、クイズを出す練習をしよう。			
・ALT と動物クイズのやり取りを行い、本時の題材をつかむ。 Hi, Luke sensei. Hint, please. (3回) It's a _____.	・ALT と一緒に本時の活動を示すデモンストレーションを3回行う。	・HRT とデモンストレーションを行う。 Hi. What's this? OK. Hint 1.It's ~. (3回) Yes!	☆「わくわくポイント」を意識したデモンストレーションを見せることで、活動の見通しをもたせる。 ☆クイズに使う英語表現に何度も触れ、安心してクイズのやり取りに参加できるようにす

<p>3 活動 【Activity】</p> <p>① ペアでクイズの出題の仕方を確認する。</p> <p>② クイズを出題し合う。 S1:Hello.What's this? S2:Hint,please. S1:OK,Hint1,It's~. (3回) S2:It's~. S1:Yes,That's right! (役割交代) クイズを出し終わったら「わくわくポイント」についてのアドバイスをお互いに伝える。</p> <p>③ 中間振り返りを行う。 S1 : Smile ができていた。 S2 : ジェスチャーがあって分かりやすい。</p> <p>④ 振り返りを基にクイズを出題し合う。</p>	<p>を出す時に意識するわくわくポイントについて確認をする。</p> <p>・ヒントに出したい単語の言い方が分からない児童に、言い方や尋ね方を教える。 It's (a,an) ○○. That's right!</p> <p>・児童のやり取りの様子を動画で撮影し児童に見せることで、児童自らが友達によさに気付けるようにする。</p> <p>・「わくわくポイント」を意識して活動できていたペアを称賛し、相手意識をもたせる。</p> <p>・児童のやり取りを見守りよくなっているところを見つけ、称賛する。</p>	<p>That's right!</p> <p>・言い方が分からない単語の発音の模範を示す。 ・発音や活動の支援をする。 It's (a,an) ○○. That's right!</p> <p>・児童と一緒にクイズのやり取りをして発音や活動の支援をする。</p> <p>・児童の活動の様子からよかったところを発表する。</p> <p>・児童と一緒にクイズのやり取りをして発音や活動の支援をする。</p>	<p>る。 ・相手が1年生であることを単元のゴールも含めて確認をする。</p> <p>・ビブスを使い、やり取りする相手を分かりやすくする。</p> <p>※☆「わくわくポイント」を意識して、一人一人のよさを周りに伝えながら相手意識をもって活動できるようにする。</p>
<p>評価<評価の観点> 【評価方法】</p> <p>1年生とクイズのやり取りを楽しむために、ヒントの出し方を工夫しながら、ペア同士でクイズのやり取りをしている。</p> <p style="text-align: right;"><思考・判断・表現> 【観察・振り返り】</p> <p>(おおむね満足できる児童の姿)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語を使って相手に伝わるようにヒントを出すことができる。 ・中間振り返りを経て「わくわくポイント」を意識して英語でやり取りをすることができる。 ・相手ペアのヒントの出し方について、アドバイスをすることができる。 			

<p>4 振り返り</p> <p>【Reflection】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒントを聞いて、クイズに答えることができた。 ・どのようにヒントを出せばわくわくしてくれるか考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに振り返りを書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記入の様子を見守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいに即して記入するように声を掛け、できるようになったことを自覚させ、次時への意欲を高められるようにする。
<p>5 あいさつ</p> <p>【Greeting】</p> <p>S: Let's finish English class.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語であいさつをする。 <p>That's all for today.</p> <p>See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語であいさつをする。 <p>See you next.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく英語を学習する雰囲気の中で活動を終わるようにする。

MEMO 

第5学年
外国語科

外国語科学習指導案

第5校時 児童数 30名
第5学年2組 指導者 湯澤 宏江
ALT Marcel Williams

1 単元名 Unit6 Where is the library?

2 単元の目標

- ・ ものがある場所や道案内を聞いて位置を理解し、自分たちの町の道案内をしたり、道案内の表現や語句を文字で確認したりすることができる。 (知識及び技能)
- ・ 先生の要望に合わせて泉が丘地区にあるお店や施設を選び、その場所の情報や道順を尋ねたり答えたりしている。 (思考力, 判断力, 表現力等)
- ・ 相手に配慮しながら、道順を尋ねたり答えたりしようとしている。 (学びに向かう力, 人間性等)

3 単元観

(1) 単元について

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）では、第2章第2節英語1目標（1）聞くこと「イ ゆっくりはっきり話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞きとることができるようにする。」（3）話すこと[やり取り]「ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。」に位置付けられるものである。

また、この単元は道案内の表現を題材としており、単元の系列を見ると、4年次に学習したお気に入りの場所を紹介する単元（Unit8 This is my favorite place.）を発展させた内容になっている。5年次では、どの角を曲がるか、何ブロック進むかという表現や道のどちら側にその建物があるかという表現を伝える内容を新たに学習することになる。基本表現を復習し、実演しながら新しい表現を導入して定着させていきたい。

単元のゴールは「先生たちが知りたがっている泉が丘地区の施設やお店を紹介するために、道案内をする」と設定した。自分にとって身近な場所をリアルな地図を使って説明することで、自信をもって道案内ができるだろう、また、先生たちの要望に応えるという形で場所を紹介することで、児童が相手意識をもって伝えることができるだろう、と考えた。泉が丘地区は商業施設も多く便利な地域なので、グループで協力して情報を集め、児童がおすすめの場所をより詳しく説明できるように指導していきたい。

(2) 児童の実態について

本学級は、男子12名、女子18名の計30名である。児童はこれまでに、誕生日や欲しいものについて友達同士で尋ね合ったり、クラスの友達や先生と One minute Talk をしたりするなど、自分の考えや気持ちを伝え合う学習を積み重ねてきている。外国語に対するアンケートの結果は、「外国語の授業が好きだ」、「外国語の授業に進んで参加している」という設問で、どちらも約90%の

児童が肯定的な回答をしており、児童は外国語に親しみをもち、前向きに授業に取り組んでいる様子がうかがえる。一方で、「グループやクラスの前で、英語で話すことは楽しい」、「グループやクラスの前で、英語で話すことができる」と答えた児童はどちらも約65%に減少しており、自分の意見や考えに自信がもてなかったり、発話に対して恥ずかしさや苦手意識を感じていたりすることが考えられる。

そこで本単元では、ゲーム性のある活動を通して表現に慣れ、自信をもって英語が言えるところまでしっかり練習してから、言語活動に取り組ませていきたい。また、その言語活動の際に、「4つの大切」に加えて相手に分かりやすく伝えようという意識や、相手の話を意欲的に聞く姿勢など、双方からのよりよいコミュニケーションができるような指導をしていきたい。

(3) 研究主題との関連

英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組む児童を育てるために、「先生たちが知りたがっている泉が丘地区の施設やお店を紹介するために、道案内をする」という場面を設定した。まず自分にとって一番身近な泉が丘地区の地図を使うことで、児童がこの活動を自分事として捉え、自分の考えを表現しやすくなるだろう、また、先生たちへの道案内をゴールに設定することで、相手を意識し伝えたいという気持ちを強くもつことができるだろうと考えた。振り返りカードで毎時間単元の目標を確認し、児童の伝えたい、やってみたいという意欲を高めていきたい。

(仮説1)

相手のことを考えて、自分の思いや考えを表現する児童を育てるために、相手に合わせて情報を集めたり、相手により正しく伝えるためにはどうすればよいかということペアやグループで考えたりしながら内容を推敲して、最後の実際に伝える活動に臨ませたい。また、児童同士でのやり取りの中で、お互いのやり取りのよさや改善点を伝え合うことで、内容を高めるとともに、相手を意識したコミュニケーション能力を高めていきたい。(仮説2)

英語表現を用いて伝えたい思いをもつ児童を育てるために、スモールトークで意味あるやり取りの場を多くもち、繰り返し英語表現を聞いたり発話したりすることで、それぞれの児童が「練習した表現を使って自分も伝えたい」という思いをもたせたい。また、単語や文型に慣れ親しませるようなゲームを通して、基本表現を楽しく身に付けていけるように指導したい。(仮説3)

以上の取組により、本校の研究主題である「相手意識をもち主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」に迫りたい。

4 単元計画及び評価計画（総指導時数8時間）

聞く… 読む… 話す（やり取り）…

「記録に残す評価」 枠なし「指導に生かす評価」 話す（発表）… 書く…

時	目標（◆）と主な学習内容	評価			
		知	思	態	評価規準【評価方法】
1	◆単元のめあてを考え、使われている言葉に慣れよう。 ・【Small Talk】教師の家族の誕生日でおすすめのプレゼントについて話す。その後、				本時では、目標に向けた指導は行うが、記録に残す評価は行わない。

	<p>学年の先生たちが知りたがっていること等の話を聞き、単元の目標を一緒に考え、設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【Story】(場面) 公園で、道案内の会話をする。アニメーションを視聴して、場面と話題を捉える。 ・【Let's listen and point.】教科書の施設に関する絵を見て、聞こえてきたものを指しながら確認する。 				
2	<p>◆物の場所を表す言い方を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【Small Talk】教師の持ち物がどこにあるかを問い掛けながら、物のある場所の言い方や尋ね方の表現に慣れる。 ・【Let's practice】リズムに乗って前置詞を言うゲームを行い、前置詞に慣れ親しむ。 ・【Let's watch.】アニメーションの一部を使って、Step1の表現を確認する。 ・【Let's try.】Where is Doraemon?ゲームを作り、尋ね方や答え方を練習する。 	聞			<p><知識・技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Where is ...? や It's on / in / under / by ... などの表現や関連語句を理解し、それがあある場所について、具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。 <p>【観察・振り返りカード】</p>
3	<p>◆物がどこにあるかを尋ね合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【Treasure Hunt】教師から宝のありかを聞き、その情報に基づいて教室内にあるカードを探して、グループでキーワードを考える。 ・【Let's listen】Picture Dictionaryで語彙を確認する。登場人物の会話から、何が室内のどこにあるかを聞き取る。 ・【Let's Try】自分の部屋に置く物と場所を考え、ペアになってものがどこにあるかを尋ね合う。 	や			<p><知識・技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Where is ...? や It's on / in / under / by ... などの表現や関連語句を理解し、室内のものについて、それがあある場所などを伝え合う技能を身に付けている。 <p>【観察・振り返りカード】</p>
4	<p>◆道を尋ねたり、答えたりする言い方を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【3 hint quiz】ALTがヒントを出し、どの施設について話しているか当てる。 ・【Let's listen.】Picture Dictionaryで語彙を確認する。道案内の会話から、どの施設が地図上のどこにあるかを聞き取る。 	聞			<p><知識・技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Where is ...? や Go straight for ... Turn right / left ... などの表現や関連語句を理解し、町の施設や場所への道順などの具体的な情報を聞き取る技

	<ul style="list-style-type: none"> ・【Let's try.】教室を町に見立てて、ゴールまでの道案内をする。 				<p>能を身に付けている。</p> <p>【観察・振り返りカード】</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 泉が丘の地図で道順を尋ねたり、答えたりしよう。 ・【Let's play.】 Simon says Game で、Step2 の表現に慣れる。 ・【Let's Listen to ALT】 ALT がする道案内の指示を聞き取って、地図を見ながら目的地を当てる。 ・【Let's try.】 教師の悪い例とよい例の会話を視聴し、対話で気を付けることを確認する。ペアになって泉が丘地区にある施設とその道案内をする。 ・【Plus One】 相手を変えて、道案内をし合う。 	や			<p><知識・技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Where is …? や Go straight for … . Turn right / left … . などの表現や関連語句を理解し、町の施設への道順などを伝え合う技能を身に付けている。 <p>【観察・振り返りカード】</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 先生の要望に合わせて、泉が丘地区にあるおすすめのお店や施設を決めて、友達と道案内の仕方を練習しよう。 ・【Small Talk】 担任の先生の要望に合わせた道案内の会話を教師が見せ、施設の名前と道案内の表現を確認する。 ・【Who am I? quiz】 先生たちの情報を英語で聞いて、その先生は誰なのか当てる。 ・【Let's Think】 グループで誰がどの施設を紹介するか決めて、どのように伝えるかを考えて、練習する。 		や		<p><思考・判断・表現></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先生に紹介するお店や施設の情報を考え、これまでに学習した表現を用いて、道案内している。 <p>【観察・振り返りカード】</p>
7 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 先生の要望に応えるための施設やお店の情報や道順を、友達に分かりやすく伝えよう。 ・【Let's play.】 Simon says Game で、道案内の表現を復習する。 ・【Small Talk】 教師の道案内を聞いて、道案内の表現を確認する。 ・【Let's speak.】 泉が丘地区の地図を見て、他のグループの児童に道案内をする。実際に先生に伝えるときのやり取りに向けて、お互いのよかった点や改善点を伝える。 		や	や	<p><思考・判断・表現></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先生たちの要望に合わせた道案内をするために、自分の考えを加えて、尋ねたり答えたりしている。 <p>【観察・振り返りカード】</p> <p><主体的に学習に取り組む態度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手に配慮しながら、道案内をしようとしている。 <p>【動画・振り返りカード】</p>

8	<p>◆先生に道案内した動画を見て、内容や態度を振り返ろう。(事前準備として、次の授業までに先生方にインタビューし、その様子を動画に撮っておく。)</p> <p>・【Let's look back.】先生に案内したときの動画を見直し、自分の会話を振り返り、班の人と感想を伝え合う。</p> <p>・【Let's watch.】何グループかの発表動画を全体で見て、よかったところや改善点を考える。</p>		や	や	<p><思考・判断・表現></p> <p>・道案内の表現や関連語句を用いて、お店の情報や道順を、相手の要望や反応に合わせて伝えている。</p> <p>【動画・振り返りカード】</p> <p><主体的に学習に取り組む態度></p> <p>・相手に配慮しながら、道案内をしようとしている。</p> <p>【動画・振り返りカード】</p>
---	---	--	---	---	--

5 本時の指導

- (1) 題目 先生たちに泉が丘地区を案内できるようにしよう。
- (2) 本時の目標
 - ・ 泉が丘地区の施設やお店について、先生たちの要望に合わせて自分の考えを加えて道案内をしている。(思考力, 判断力, 表現力等)
- (3) 授業の観点
 - ・ スマールトークの際に、児童の考えを引き出しながら施設でできることや道案内で使える英語表現のヒントを与えたり、デモンストレーションの際に、モデルやコミュニケーションのポイントを示したりしたことは、児童が相手を意識して伝え合うために効果的であったか。
 - ・ 他のグループの児童に道案内をし、お互いの活動のよかったところや改善点を伝え合ったり、中間振り返りで自分の活動を振り返ったりしたことは、児童一人一人が自己調整しながら、伝え方を工夫してより分かりやすい道案内をできるようにするために効果的であったか。
- (4) 本時で慣れ親しませたい言語材料
 - Where is …? It's on / in / under / by ….
 - Go straight for …. Turn right / left ….

学習活動	指導上の留意点	資料・準備
<p>1 英語であいさつをし、ウォーミングアップで Simon says game をする。</p> <p>予想される発言や姿 S1: まちがって動いてしまった。 S2: 引っかけからずにできたぞ。</p> <p>2 ハンバーグを食べられるお店についてのスモールトークを聞いたり、反応したりして、本時のめあてを考える。</p> <p>予想される発言や姿 S1: 私も上手に道案内したい。 S2: 「～側にある。」の言い方が難しく、うまく伝えられるか不安だ。</p> <p>先生に道案内できるようにするために、施設やお店の情報や道順を、友達に伝えよう。</p>	<p>・英語で元気よくあいさつをすることにより、活動への意欲を高める。</p> <p>・ゲームを行う前に、内容の確認や、使用する英語表現の復習をする。</p> <p>☆JTE と ALT のやり取りでは泉が丘近辺の地図を使いながら例を挙げ、自分の考えを表現するモデルとなることで、見通しをもって活動できるようにする。</p> <p>◎児童ともやり取りをして、積極的に発話できない児童もペアで自分の意志を伝えたり、全体で声を発したりする機会を設ける。</p> <p>・児童の意欲を引き出しながら、本時のめあてを設定していく。</p>	<p>・拡大地図 ・駒 ・ピクチャーカード</p>
<p>3 施設やお店の道案内をし、よかったところや改善点を伝え合いながら高め合う。</p> <p>① 道案内のやり方を確認し、デモンストレーションを見る。 ② 4人の班で練習をする。 ③ 他の班の児童と道案内をし合う。 ④ 中間振り返りを行う。 ⑤ 別の班の児童と道案内をし合う。</p> <p>予想される発言や姿 S1: もっと声を大きくするといいよ。 S2: 確認しながら指示してくれたから、安心して地図をたどることができたよ。 S3: お店の情報が魅力的で、行きたくなったよ。</p>	<p>・児童が自信をもって道案内できるようにヒントカードを黒板に貼りながら表現を確認したり、デモンストレーションで活動のやり方を示したりする。</p> <p>・児童が相手を意識して道案内できるように、相手の反応を見ながらうまく伝わっているか確かめることを促したり、うまく伝わらなかった時の対処法を示したりする。</p> <p>・4人で互いに伝え合う活動を行うことで内容を高めたり相手を意識したやり取りをしたりできるようにする。</p> <p>☆中間振り返りでは、相手に分かりやすく伝わったか、コミュニケーションで大切なことを意識して活動できていたか確認し、より分かりやすい道案内につながるようにする。</p> <p>※友達の良い点を発表してもらい、よ</p>	<p>・ピクチャーカード ・掲示物 (Good Talk Points) ・地図、情報ポスター ・駒 ・端末</p>

	<p>さを認め合う雰囲気をつくる。</p> <p>・工夫して道案内しているグループを紹介し、称賛する。</p>	
<p>評価<評価の観点>【評価方法】</p> <p>・ 泉が丘地区の施設やお店について、先生たちの要望に合わせて自分の考えを加えて道案内をしている。</p> <p style="text-align: right;"><思考・判断・表現>【観察・振り返りカード】</p> <p>(おおむね満足できる状況)</p> <p>自分の考えを加えて、先生たちの要望に合わせたお店や施設への道案内をしている。</p> <p>(十分満足できる状況)</p> <p>先生たちの要望に合わせたお店や施設の紹介やそこでできること等を伝え、相手が理解しているか確認しながら道案内をしている。</p> <p>(おおむね満足できる状況に達していない児童への手立て)</p> <p>英語で表現できるように、個別に表現の仕方を指導する。</p>		
<p>4 振り返りをし、あいさつをする。</p>	<p>・活動の際の困り感や気付いたことを取り上げたり、どんなところがよかったかを具体的に示したりして、次の活動への意欲を高められるようにする。</p>	

MEMO 

